

貸借対照表

(2026 年3月31日 現在)

(単位:百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	10,399	流 動 負 債	9,191
現 金 預 金	891	短 期 借 入 金	6,300
営 業 外 受 取 手 形	3	1年内返済予定の長期借入金	2,060
関 係 会 社 短 期 貸 付 金	9,462	未 払 金	271
未 収 入 金	29	未 払 費 用	3
そ の 他	13	未 払 法 人 税 等	388
		未 払 消 費 税 等	37
		預 り 金	94
		そ の 他	34
固 定 資 産	10,801	固 定 負 債	1,457
有 形 固 定 資 産	922	長 期 借 入 金	1,415
土 地	903	長 期 未 払 金	0
そ の 他	19	繰 延 税 金 負 債	41
無 形 固 定 資 産	76	負 債 合 計	10,648
ソ フ ト ウ エ ア	75	純 資 産 の 部	
そ の 他	0	株主資本	10,375
投 資 そ の 他 の 資 産	9,803	資 本 金	4,813
投 資 有 価 証 券	377	資 本 剰 余 金	2,776
関 係 会 社 株 式	7,324	資 本 準 備 金	2,313
長 期 前 払 費 用	1	そ の 他 資 本 剰 余 金	463
関 係 会 社 長 期 貸 付 金	2,100	利 益 剰 余 金	2,927
そ の 他	0	利 益 準 備 金	159
		そ の 他 利 益 剰 余 金	2,767
		繰 越 利 益 剰 余 金	2,767
		自 己 株 式	△ 142
		評 価 ・ 換 算 差 額 等	141
		そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	141
		新 株 予 約 権	35
資 産 合 計	21,201	純 資 産 合 計	10,552
		負 債 ・ 純 資 産 合 計	21,201

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

(単位:百万円)

科 目	金 額	
I. 営業収益		
関係会社受取配当金	1,226	
経営管理収入	153	
不動産賃貸収入	142	1,522
II. 営業費用		
不動産賃貸原価	45	
販売費及び一般管理費	609	654
営業利益		867
III. 営業外収益		
受取利息	200	
受取配当金	4	
その他	2	207
IV. 営業外費用		
支払利息	165	
資金調達費用	4	
その他	8	178
経常利益		896
V. 特別利益		
固定資産売却益	2,154	2,154
VI. 特別損失		
公開買付関連費用	380	380
税引前当期純利益		2,669
法人税、住民税及び事業税	378	
法人税等調整額	7	386
当期純利益		2,283

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株 主 資 本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当 期 首 残 高	4,813	2,313	498	2,812	159	1,182	1,342	△ 322	8,646
当 期 変 動 額									
剰 余 金 の 配 当						△ 699	△ 699		△ 699
当 期 純 利 益						2,283	2,283		2,283
自 己 株 式 の 取 得								△0	△0
自 己 株 式 の 処 分			△ 35	△ 35				179	143
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当 期 変 動 額 合 計	—	—	△ 35	△ 35	—	1,584	1,584	179	1,728
当 期 末 残 高	4,813	2,313	463	2,776	159	2,767	2,927	△ 142	10,375

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
当 期 首 残 高	69	69	87	8,803
当 期 変 動 額				
剰 余 金 の 配 当				△ 699
当 期 純 利 益				2,283
自 己 株 式 の 取 得				△0
自 己 株 式 の 処 分				143
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	72	72	△ 51	21
当 期 変 動 額 合 計	72	72	△ 51	1,749
当 期 末 残 高	141	141	35	10,552

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

- | | |
|-------------------|---|
| ① 関係会社株式 | 移動平均法による原価法 |
| ② 満期保有目的の債券 | 償却原価法（定額法） |
| ③ その他有価証券 | |
| ・ 市場価格のない株式等以外のもの | 事業年度の末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） |
| ・ 市場価格のない株式等 | 主として移動平均法による原価法 |

(2) 固定資産の減価償却の方法

- | | |
|------------------------|--|
| ① 有形固定資産
（リース資産を除く） | 定率法
ただし、本館建物及び1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。
建物 15～50年 |
| ② 無形固定資産（リース資産を除く） | |
| ・ 自社利用のソフトウェア | 社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法 |

(3) 引当金の計上基準

- | | |
|-------|---|
| 貸倒引当金 | 売上債権、貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討して、回収不能見込額を計上することとしております。 |
|-------|---|

(4) 収益及び費用の計上基準

主要な事業における顧客との契約に基づく主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点は以下のとおりです。

（関係会社受取配当金）

当社グループ会社への出資により年2回の配当金を受け取っており、配当金を受け取った時点で収益を認識しております。

（経営管理収入）

履行義務は契約期間にわたり当社グループ会社への経営指導を行うことであり、契約期間にわたり経営管理サービスの支配を顧客に提供した時点で収益を認識しております。

（不動産賃貸収入）

「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号 2007年3月30日）に基づき売上高を認識しております。

(5) その他計算書類作成のための基本となる事項

事前交付型譲渡制限付株式（リストラクテッド・ストック）

役員に対する事前交付型譲渡制限付株式の報酬費用総額は、契約成立時点の時価（株価）で測定し、対応する勤務期間が1年間と短期であることから、その全額を当事業年度の営業費用として処理しております。

従業員に対する事前交付型譲渡制限付株式の報酬費用総額は、契約成立時点の時価（株価）で測定し、対応する勤務期間（3年）にわたって定額で営業費用として処理しております。

2. 会計上の見積りに関する注記

関係会社投融資の評価

① 当事業年度の計算書類に計上した金額

当事業年度に計上した金額は以下のとおりです。

(単位：百万円)

勘定科目	計上金額
関係会社株式	7,324
関係会社短期貸付金	9,462
関係会社長期貸付金	2,100
上記に係る貸倒引当金	—
関係会社株式評価損	—
貸倒引当金繰入額	—

② 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

(算出方法)

a. 株式の評価

当社の保有する関係会社株式は市場価格のない株式であり、財政状態の悪化により実質価額が著しく低下したときは回復可能性が十分な証拠により裏付けられる場合を除き、相当の減額を行い、評価差額は損失として計上することとしております。

当社では、実質価額が著しく悪化した関係会社について中期経営計画をもとに回復可能性を見積り、概ね5年以内に回復しない場合は損失処理を行うこととしております。

b. 債権の評価

財政状態の悪化により債権及び融資の回収が困難となった関係会社については、当該会社に対する債権及び融資について個別に回収可能性を見積り、回収不能見込額を損失処理することとしております。

回収可能性の見積りにあたり、中期経営計画に基づく将来キャッシュ・フローを見積り回収不能部分について貸倒引当金を計上することとしております。

これらの見積りには不確実性が伴うため、当社の業績を変動させる可能性があります。

(主要な仮定)

中期経営計画

回復可能性及び回収可能性の見積りにあたり中期経営計画を利用しておりますが、中期経営計画の策定にあたり国土交通省やNEXCO及びJRJT等の発注量を予測し反映しております。

なお、契約金額は低廉なものではなく適正価格で行われること（契約変更に係るものを含む）を想定しております。

また、製品を製造する工場の稼働率はその生産能力に比し適正な水準であることを想定しております。

(翌事業年度の計算書類に与える影響)

上述の仮定及び見積りについて、将来の関係会社の業績変動等により見直しが必要となった場合、翌事業年度以降の計算書類の関係会社株式、貸倒引当金、関係会社株式評価損及び貸倒引当金繰入額に影響を与える可能性があります。

3. 貸借対照表に関する注記

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額 128百万円
- (2) 関係会社に対する金銭債権又は金銭債務（区分掲記したものも含む）は次のとおりであります。
- ① 短期金銭債権 9,489百万円
- ② 長期金銭債権 2,100百万円
- ③ 短期金銭債務 173百万円
- (3) 貸出コミットメント

運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行6行と貸出コミットメント契約を締結しております。
当事業年度末における貸出コミットメント契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

貸出コミットメントの総額	4,000百万円
借入実行残高	1,900百万円
差引額	2,100百万円

4. 損益計算書に関する注記

- (1) 関係会社との取引高（区分掲記したものも含む）
- ① 営業収益 1,500百万円
- ② 営業費用 82百万円
- ③ 営業取引以外の取引高 234百万円
- (2) 特別損失に計上している公開買付関連費用は、当社が2026年2月4日開催の取締役会において賛同する旨の意見を表明する決議を行った、株式会社横河ブリッジホールディングスによる当社株券等に対する公開買付けに係る証券会社や弁護士に対するアドバイザー費用等であります。

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首の株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末の株式数
普通株式	873千株	0千株	471千株	402千株

(注) 自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取りによるものであります。
自己株式の株式数の減少は、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分261千株、ストックオプションの権利行使210千株によるものであります。

6. 税効果会計に関する注記

- (1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

未払事業税	14百万円
株式報酬費用相当額	10百万円
関係会社株式評価損	212百万円
関係会社支援損	68百万円
減損損失	5百万円
繰越欠損金	27百万円
その他	3百万円
繰延税金資産小計	341百万円
評価性引当額	△318百万円
繰延税金資産合計	23百万円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△64百万円
繰延税金負債合計	△64百万円
繰延税金資産・負債（△）の純額	△41百万円

(2) 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社は、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

7. 関連当事者との取引に関する注記

(1) 子会社

種 類	会社等の名称	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権等の 所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科 目	期末残高 (百万円)
子会社	極東興和(株)	1,600	建設事業・製品販売事業	所有 100	経営指導及び経営管理システムのサービス提供 役員の兼務	経営指導コンサルティング契約、経営管理サービス契約	128	未収入金	19
						子法人へ支払う通算税効果額未払計上	11	未払金	11
						工場土地・事務所賃貸契約	107	未払金	58
						貸付金利息の受取	179	関係会社金	8,262
						当社借入に対する債務被保証	1,900	関係会社金 長期貸付金	2,080
子会社	東日本コンクリート(株)	100	建設事業・製品販売事業	所有 100	経営指導及び経営管理システムのサービス提供 役員の兼務	経営指導コンサルティング契約、経営管理サービス契約	17	未収入金	1
						子法人から受け取る通算税効果額未収計上	3	未収入金	3
子会社	キョクトウ高宮(株)	100	製品販売事業	所有 100	経営指導及び経営管理システムのサービス提供 役員の兼務	経営指導コンサルティング契約、経営管理サービス契約	6	関係会社 短期貸付金	1,200
						工場土地賃貸契約	5	関係会社 長期貸付金	20
						貸付金利息の受取	17		
						子法人から受け取る通算税効果額未収計上	1	未収入金	1
子会社	ケイ・エヌ情報システム(株)	50	情報システム事業	所有 100	経営管理システムの開発、保守委託	当社の情報処理業務、ソフト開発委託	120	未払金 預り金	7 82

(注1) 当社グループ内の企業相互間の余剰資金を集中管理することにより、資金の効率化を図る目的でCMS（キャッシュマネジメントシステム）を導入しており、市場金利等を勘案した上で取引条件を決定しております。なお、グループ内の会社間で資金の貸借を随時行っているため、取引金額は記載しておりません。また、上記期末残高の預り金はCMSに係るものであり、関係会社短期貸付金にはCMSに係るものを含みます。

(注2) 関係会社長期貸付金については、市場金利を勘案し利率を合理的に決定しております。

(注3) 経営指導コンサルティング料及び経営管理サービス料は、コンサルティング契約等に基づく、継続的経営指導、基幹システムの提供、間接業務の提供などの対価であり、每期交渉の上決定しております。
情報処理業務、ソフト開発委託及び工場土地・事務所賃貸契約については、市場実勢を勘案して、価格交渉の上で決定しております。
債務被保証について、保証料の支払は行っておりません。

(注4) 子法人から受け取る通算税効果額未収計上及び子法人へ支払う通算税効果額未払計上は、当社のグループ通算税額計算に基づき配分したものであります。

(2) 役員及び個人主要株主等

種 類	会社等の名称 又は氏名	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科 目	期末残高 (百万円)
役員	藤田公康(注1)	—	当社 代表取締役 社長	被所有 3.51	—	金銭報酬債権の現 物出資(注2)	13	—	—

(注1) 藤田公康氏は2025年12月13日に逝去されたため、同日をもって当社代表取締役を退任しております。任期中の状況を記載しております。

(注2) 金銭報酬債権の現物出資は、譲渡制限付株式報酬制度に伴うものであります。

8. 収益認識に関する注記

(顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報)

収益を理解するための基礎となる情報は、「1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記 (4) 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりです。

9. 1株当たり情報に関する注記

- | | |
|----------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産額 | 231円69銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 50円56銭 |